

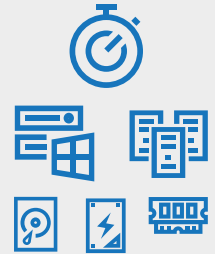
# PowerEdgeサーバー製品を最新化 ～サーバー更新によるビジネスの生産性向上に向けて～

多くの企業が、古いサーバーを長期にわたり使い続けています。調査会社の IDC 社によると、大企業の半数以上（53%）がサーバーハードウェアの交換サイクルが5年以上であると回答しています（\*）。

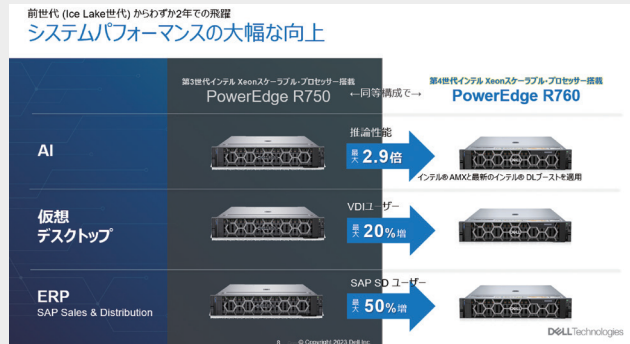
ビジネスの生産性を向上させるには、データを迅速に活用し、顧客分析や受発注処理などを行ったり、情報を共有する必要があります。そのためには、IT システムの基盤となるサーバーの刷新が欠かせません。古いサーバーを利用していると、データ量が増加すれば読み込みや書き込み処理などに時間がかかり、利用者がストレスを感じたり、処理が時間内に終わらなかつたりといった事態が発生することになります。

また、ハードウェアやSSDを含めた、多くの部品から構成されるサーバーでは、バスタブ曲線に従い、その故障率は時間の経過とともに変化していきます。古いサーバーで、うっかり保守切れを起こしていると、ハードウェアやOSの障害が発生した場合、問い合わせできず、修理などの対応ができなくなります。

（\*）出典：IDC ホワイトペーパー「企業向けサーバーの頻繁な交換によるパフォーマンスの最適化」2023年4月



## サステナビリティを推進し、生産性とセキュリティを向上させる



デジタル化が進むにつれて、企業が保存する文書や画像、動画などのデータ量が爆発的に増加している昨今、サーバーの性能不足が企業の生産性を落とすボトルネックとなつてしまっています。性能改善には、アプリケーションの改善だけでは十分ではありません。

ハードウェアが起因となったCPU性能、メモリー容量やストレージ性能の不足などがあります。このボトルネックを解消するもっとも簡単な方法の1つが、最新のCPUを搭載したサーバーを利用することです。PowerEdgeサーバーはここ数年でさらに技術進歩を遂げ、性能が大幅に向上しています。さらに、企業にとって重要な情報を保持するサーバーには、ますます巧妙化しているサイバー攻撃に対して、常に最新のセキュリティ強化が必要です。データや知的財産を保護するための、より強固で重層的なアプローチを提供するサイバーレジリエントアーキテクチャを持つPowerEdgeサーバーは組織が貴重なデータと重要なインフラを保護する基盤として機能します。この機会に、最新のサーバーに移行し、生産性とセキュリティを向上させることをお勧めします。

**サステナブルな製品づくり**

- サーマル制御能力とスマート冷却オプション**
  - AI/MLワークロードに最適化された冷却ファン制御とシステム消費電力を削減
  - 顧客の設置環境に最適化するサーマル設計
- エネルギー効率**
  - 前世代に比べて最大70%の内部温度センサで冷却ファン稼働とシステム消費電力を削減
  - R760の消費電力あたりのパフォーマンスはR750の約22%向上
- インフラストラクチャー統合**
  - 最新世代のPowerEdge 1台に複数の旧世代サーバーを統合しシステムあたりの消費電力を削減可能

PowerEdgeでエネルギー効率の改善を

- OpenManage Enterprise (OME) Power Manager
- EPEAT Silver & Bronze 認証を得た製品群
- 製品ポートフォリオの大半が ENERGY STAR® 準拠

企業にとって、サステナブルな社会を実現することが、社会的影響、顧客要求、法的要因から求められるようになってきています。企業活動にとって、ITシステムは欠かせないものです。しかし、エネルギー効率の悪いITシステムやサーバーを導入することは、サステナブルな社会への貢献という観点から問題があるだけでなく、経済的な利益を損なうことにもつながりかねません。

従来から、デル・テクノロジーはサステナブルな製品作りを実行してきました。PowerEdgeサーバーの最新モデルでは、電子機器製品が環境に対して配慮された商品であることを示す認証である EPEAT (イービート) の Silver 認定対応機種を増やすとともに、エネルギー効率を改善し、前世代から70%内部温度センサーを増加させることにより、消費電力あたりのパフォーマンスを20%以上も向上させています。複数の旧世代のサーバーを最新のサーバー1台に統合することで、システムあたりの消費電力も削減可能です。

### 業界随一の豊富な選択肢を提供するPowerEdgeサーバーポートフォリオ

サーバーの移行にあたり、豊富な選択肢、生産性向上とコストの最適化の観点から、最適なサーバーは、PowerEdgeサーバーです。PowerEdgeサーバーのポートフォリオは、ソフトウェアファインド時代に対応し、機敏性に優れた、将来的な拡張機能が充実し、リモートオフィスから大規模なデータセンターまで、幅広い環境に対応し、ビジネスの生産性向上に貢献することが可能になります。

- GPU対応サーバーからAMDサーバーまで幅広いニーズに対応できます。
- 幅広いサーバー内蔵ストレージオプションにより、オールフラッシュ構成から、低コストの大容量ストレージまで、アプリケーション要件に合わせて最適な内蔵ストレージを選択できます。
- シンプルかつインテリジェントな管理：iDRAC (アイドラック)、OpenManage (オープンマネージ)、CloudIQ (クラウドアイキュー) といったツールにより、サーバーを効率的に監視・管理ができ、インフラ監視の日常業務に費やす時間とコストを削減できます。

**Dell PowerEdgeサーバー最新世代ポートフォリオ**  
進化するお客様のニーズに応じたサーバーの専用設計

この図表は、PowerEdgeサーバーの最新世代ポートフォリオを示しています。カテゴリは以下の通りです：

- AI/ML/AIワークロード最適化:** XE840, XE860, XE880
- メインストリーム:** R760, R760X, R760X2, R760X3, R760X4, R760X5, R760X6, R760X7, R760X8, R760X9, R760X10, R760X11, R760X12, R760X13, R760X14, R760X15, R760X16, R760X17, R760X18, R760X19, R760X20, R760X21, R760X22, R760X23, R760X24, R760X25, R760X26, R760X27, R760X28, R760X29, R760X30, R760X31, R760X32, R760X33, R760X34, R760X35, R760X36, R760X37, R760X38, R760X39, R760X40, R760X41, R760X42, R760X43, R760X44, R760X45, R760X46, R760X47, R760X48, R760X49, R760X50, R760X51, R760X52, R760X53, R760X54, R760X55, R760X56, R760X57, R760X58, R760X59, R760X60, R760X61, R760X62, R760X63, R760X64, R760X65, R760X66, R760X67, R760X68, R760X69, R760X70, R760X71, R760X72, R760X73, R760X74, R760X75, R760X76, R760X77, R760X78, R760X79, R760X80, R760X81, R760X82, R760X83, R760X84, R760X85, R760X86, R760X87, R760X88, R760X89, R760X90, R760X91, R760X92, R760X93, R760X94, R760X95, R760X96, R760X97, R760X98, R760X99, R760X100
- エッジ:** R4400, XR720, XR5610, XR6900
- モバイル:** R4700C
- ストレージ最適化:** R760S02, R660, R660S, T560
- クラウド最適化:** C620, C620S, R6615, R6615S, R6615X, R6615X2, R6615X3, R6615X4, R6615X5, R6615X6, R6615X7, R6615X8, R6615X9, R6615X10, R6615X11, R6615X12, R6615X13, R6615X14, R6615X15, R6615X16, R6615X17, R6615X18, R6615X19, R6615X20, R6615X21, R6615X22, R6615X23, R6615X24, R6615X25, R6615X26, R6615X27, R6615X28, R6615X29, R6615X30, R6615X31, R6615X32, R6615X33, R6615X34, R6615X35, R6615X36, R6615X37, R6615X38, R6615X39, R6615X40, R6615X41, R6615X42, R6615X43, R6615X44, R6615X45, R6615X46, R6615X47, R6615X48, R6615X49, R6615X50, R6615X51, R6615X52, R6615X53, R6615X54, R6615X55, R6615X56, R6615X57, R6615X58, R6615X59, R6615X60, R6615X61, R6615X62, R6615X63, R6615X64, R6615X65, R6615X66, R6615X67, R6615X68, R6615X69, R6615X70, R6615X71, R6615X72, R6615X73, R6615X74, R6615X75, R6615X76, R6615X77, R6615X78, R6615X79, R6615X80, R6615X81, R6615X82, R6615X83, R6615X84, R6615X85, R6615X86, R6615X87, R6615X88, R6615X89, R6615X90, R6615X91, R6615X92, R6615X93, R6615X94, R6615X95, R6615X96, R6615X97, R6615X98, R6615X99, R6615X100
- クラウドハイブリッド/ハイブリッド:** H55610, H55620

● 製品の購入には当社の販売条件 (https://www.dell.com/learn/jp/ja/jpcorp1/terms-of-sale) または締結済みの再販売契約書が適用されます。  
 ● Dell Technologies、Dellの商標については、Dell Technologies Inc. 及びその関連会社の登録商標です。  
 ● Intel、インテル、Intelロゴ、Intel Inside、Intel Insideロゴ、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国および/または他の国におけるIntel Corporationの登録商標です。  
 ● Windows、Windows Server は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。  
 ● その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。  
 ● 本カタログに使用されている製品写真は、出荷時のものと異なる場合があります。  
 ● 構成や仕様により、提供に制限がある場合があります。  
 ● 本書の記載は2024年1月30日現在のもので、記載されている仕様・価格・内容は予告なく変更される場合があります。



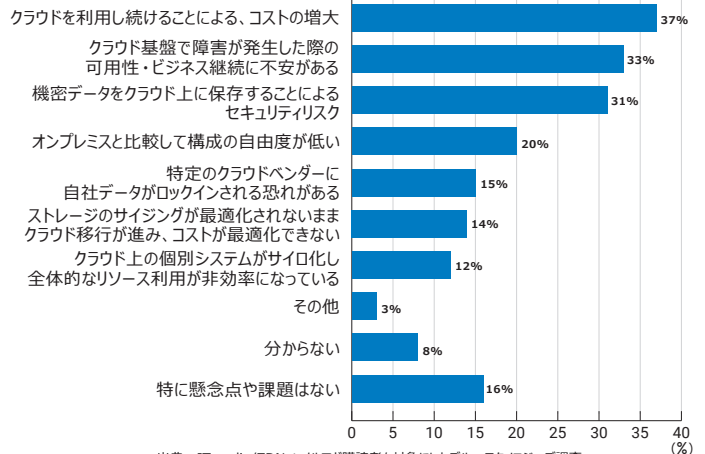
# PowerEdgeサーバー製品の保守切れを迎えるお客様に ～サーバー更新によるビジネスの生産性向上に向けて～

## ■「クラウドからオンプレミスへ」が増加

デル・テクノロジーズが 2023/12月～2024/1月に ITmedia/ZDNet メルマガ購読者を対象に実施した「オンプレとクラウドに関する実態調査」によれば、パブリッククラウド (IaaS) について、①コストの増大、②障害時のビジネス継続性、③セキュリティリスクの3つが最も大きな懸念や課題であることが判明しました。2022年初以降の円安基調の為替トレンドの中で、コスト削減を目的として、パブリッククラウドを導入されたものの、想定以上にコストがかかってしまったといったケースもあったものと想定されます。

例えば、急激なアクセス増がなく、また、頻繁に変更する必要のない社内システムをクラウド化するメリットは必ずしも多くありません。「オンプレミスかクラウドか」ではなく、用途に合わせてオンプレミスとクラウドを組み合わせた最適なシステム構築が、今、IT部門に求められているのです。

## パブリッククラウド (IaaS) を利用する際の懸念点や課題



出典：ITmedia/ZDNet メルマガ購読者を対象にしたデル・テクノロジーズ調査「オンプレとクラウドに関する実態調査」2023/12/13～2024/1/12；260名の回答結果

## PowerEdgeサーバーシステム管理

### iDRAC

業界屈指のインテリジェンスを持つ管理プロセッサ。導入からアップデート、メンテナンス、監視まで管理可能。

- 組み込み型で、豊富な機能を持つエージェント不要のリモート管理
- 管理画面で、パフォーマンス、電源、消費電力など180以上のサーバーメトリックを監視を可視化

### OpenManage Enterprise (OME)

1:多の統合管理と運用の自動化をサーバーに提供。サーバーのライフサイクル管理を行います。

- 最大8,000台のデバイスを管理
- サーバーの導入、構成、ファームウェア更新、リアルタイムの健全性を容易に監視
- CloudIQへのアグリゲーターとしても機能

### CloudIQ

AIを活用し、分析とレコメンデーションによるAIOps (AIによる運用)を実現するSaaSベースの監視ツール。

- サーバーだけでなく、ストレージ、ネットワークなどすべてのデル・テクノロジーズ基盤製品を一元管理
- サイバーセキュリティポリシーの設定と監視
- 異常な動作を自動でレポート
- 60以上のパフォーマンスメトリックを可視化

## 「万全のサポート」を支えるデル・テクノロジーズのサポート体制

サーバーとPCの両方にかかわるインフラ障害が発生した場合、サーバーとPCのサポート窓口が2つに分かれていた場合どうなるでしょうか？お客様はサポートセンター間でたらい回しにされるリスクを抱えることになります。デル・テクノロジーズは、国内のサポートセンターから、法人向けのサーバーを含めたインフラ製品とPCに対してワンストップ保守を提供し、障害切り分けが困難な問題が発生した場合にも、より迅速かつスムーズな問題解決を支援します。

デル・テクノロジーズは、豊富な技術知識を有するデル・テクノロジーズの正社員で構成された国内自営のコールセンターである宮崎のカスタマーセンターと障害発生から保守サービスまでの対応をリアルタイムに監視する東京のサービスコマンドセンターを起点に、専門のサポートスタッフが受付からトラブル解決まで一貫して行います。オンサイト保守が必要な場合は、全国の保守サービス拠点到配置されたエンジニアが即座に対応に当たり、全国18カ所の保守部品配送拠点に配置した保守部品を利用して迅速にパーツ交換も行える体制になっています。

- リモートエンジニアは100%正社員対応
- 自社の国内センターで24時間365日サポート
- 4時間以内のオンサイト対応・全国カバー率95%\*
- サポートコールお客様満足度91.1%\*
- サービスコマンドセンター（東京）にて、人員配置及び部品在庫を徹底管理

\*1 対応時間はサポート契約内容により異なります。 \*2 デル・テクノロジーズ調べ



カスタマーセンター（宮崎）



サービスコマンドセンター（東京）

注：保守期間満了前にお手続きいただく場合は延長契約、保守期間終了後にお手続きいただく場合は再契約となり、価格が異なります。なお再契約の場合、保守にご加入でなかった期間に発生した障害につきましては有償修理となります。出張修理などの想定外の出費が発生します。適ったの保守適用とはなりませんのでご注意ください。

●製品の購入には当社の販売条件 (<https://www.dell.com/learn/jp/ja/jpcorp1/terms-of-sale>) または締結済みの再販売契約書が適用されます。  
●Dell Technologies、Dellの商標については、Dell Technologies Inc. 及びその関連会社の登録商標です。●Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Xeon、Xeon Inside は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。●Windows、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。●その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。●本カタログに使用されている製品写真は、出荷時のものと異なる場合があります。●構成や仕様により、提供に制限がある場合があります。●本書の記載は2024年1月30日現在のものです。記載されている仕様・価格・内容は予告なく変更される場合があります。



Windows Server 2022:  
Modernize to boost your business